

2020（令和2）年度
学校関係者評価 報告書

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

2020（令和2）年度 学校関係者評価報告書

学校法人東杜学園 国際マルチビジネス専門学校では、教育理念、教育目的等をはじめとする学校教育及び学校運営について現状を点検し、その改善を図るため自己点検・自己評価を実施し「2020（令和2）年度自己点検評価報告書」を取りまとめ、当校ホームページに公開致しました。

また、学校関係者評価委員会を設置し、本校に関連する業界・企業の皆様より当校の学校教育及び運営に対しご意見やご指導を頂きました。

頂戴致しましたご意見等につきましては「2020（令和2）年度学校関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

委員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘を今後の学校運営に反映させ、教職員一同社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質のさらなる向上を目指して参る所存です。

関係者の皆様には、今後共なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2021（令和3）年 11月

学校法人 東杜学園

国際マルチビジネス専門学校

校長 野口 和江

1 学校関係者評価委員会

（1） 学校関係者評価委員

高木 友子 氏 公益財団法人日本ケアフィット共育機構 事務局長

伊藤 彰徳 氏 名鉄観光サービス株式会社仙台支店 営業課長

齋藤 康紀 氏 仙台ターミナルビル株式会社 ホテルメトロポリタン仙台
ホテル事業本部 事業企画室 次長

小笠原 均 氏 有限会社花嫁の千登勢 取締役副社長

板垣 佑子 氏 Across THE Universe 店長

早本 吉宏 氏 株式会社留学ジャーナル 執行役員 事業企画部・営業統括部 部長

（2） 対象期間

2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日

（3） 評価項目、評価スケール

4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）の4段階評価にて実施した「2020（令和2）年度自己評価報告書」を基本に、評価項目別に委員会から頂戴した評価、意見並びに提案を以下に報告致します。

(4) 評価及び意見

評価項目 1：教育理念・目標

・新型コロナウイルス感染症感染拡大により、接客業を取り巻く環境は激変したが、企業はアフターコロナの状況を見据え動き始めている。また、サービス業は人の心を生かす人生のスパイスとなり、また幸福感を与えることができる仕事であることから、決してなくなることはない職業である。

学生は将来を担う金の卵であり、この職業に就く矜持を持てるよう、また学校はこの部分をより強く指導すべきである。

評価項目 2：学校運営

・特に委員会からの意見、質問はなかった。

評価項目 3：教育活動

・可視化・数値化はできないが「コミュニケーション能力」を持ち合わせることでより困難な状況に立ち向かえる為、継続して更なる強化を願いたい。

評価項目 4：学修成果

・各団体や協会、企業との強固な連携により、適切な指導を受けられていると感じる。

評価項目 5：学生支援

・5月に全学生対象の「MBC 特別修学支援金(30,000円/1名)」給付について、当初予算化されている性質のものではないにも関わらず、困窮している学生のことを第一に考えての判断は大いに評価に値すると思う。

評価項目 6：教育環境

・定期的な見直しや改善を行っており、適切である。

評価項目 7：学生受け入れ募集

・求人数も一時的には落ち込んだが、良質な人材確保のため、企業はアフターコロナの状況を意識し既に動き出している。人にしかできない接客業の未来は明るいということをいかに伝えるかが重要である。

評価項目 8：財務

評価項目 9：法令等の遵守

・財務状況、会計監査、法令の遵守については適正に行われている。

評価項目 10：社会貢献・地域貢献

・特に委員会からの意見、質問はなかった。

評価項目 11：国際交流

- ・昨年同様、今後の外国人留学生の募集については、コロナ禍の影響を踏まえた、より冷静な判断が必要。

(5) 課題

- ・「専門性」+「コミュニケーション能力」の更なる指導及び強化
- ・多岐にわたる外国人留学生のより細やかな指導・対応・体制強化
- ・各業界新規分野の知識や技術を意識した研修、良質な人材の開拓

以上の内容を学内で検討し、改善案をまとめ次回以降の改善を目指す。

以 上